# レイノー認定者の経過と今後の方向

付知営林署　　神　原　光　男

## はじめに

渡合製品事業所は名古屋管内で一番多くの認定者を抱えている事業所であり、現在2セット18名と古川からの二署間6名を合わせ、24名で例年にない豪雪の中で冬山作業に励んでいる。

改善計画を着実に進めていくなかで、認定者の適確な治療体制と、白ろう、肘の痛みなどの悪化防止、及び生産性向上を目ざし新しく開発された機械器具の積極的な導入をはかり、その成果をあげるよう作業システムの改善、作業用具の改良に努力している。

## 経　　過

渡合製品事業所は昭和32年に始めてチェンソーが入り天然林を主体に作業してきた。昭和36年頃からレイノー現象の訴えが出始め、昭和41年に認定が始まり、昭和49年に手工具セットを編成、昭和50年からはオール人工林主間伐作業に移行、現在では18人中15人が認定者で、治療を続けながら作業工程アップをめざして頑張っている。

## 治療内容

1. 毎週1回午後3時に現場から下山し産業医へ通院。

(1) パラフィンによる温熱治療

(2) 血圧測定

(3) 静脈注射、効用は末梢神経治療ほか。

(4) 高周波による理学療法

(5) 飲み薬、効用は血液の循環を促す。

(6) 温熱剤、カイロのような発熱剤

2. 入院治療

冬期間は下呂温泉病院へ45日間入院治療を7年前から続けている。入院にあたっては主任を含めた話し合いをもち、入院治療は仕事であると認識し、一歩でも治癒へむけて前進するよう強く自覚して望んでいる。

## 改善内容

1. 現場では、認定者が改善計画に沿った生産事業を進める中で「手工具による重労働から1日も早

く解放を」を合言葉に、体の調子と安全に十分配慮し振動障害対策の向上と作業意欲を持続させ、結果を恐れずどんな小さな改善にも取り組んだ。

認定者にもリモコンチェンソーが使えるようになり喜んだ。しかし「手工具伐倒に比べ面倒だ」「リモコンなどは、とても使いこなせない」と言う意見が強く出された。こんな時に誰かが「手工具の苦労を思ったり、認定者というレッテルを変えるには、今頑張らなければオレ達はいつまでたっても、このレッテルから気持ちの上で伸び上がることはできない」この言葉に「チェンソーの灯」をともし続けられる道は、リモコンを使いこなす以外にないと固く決意した。

結果……リモコン試用期間中は全木伐倒20～30本だったが、現在では平均54本、造林との連携と寒い先山での作業を少なくして体の保温を考え、不安定な場所の手工具排除を目的として、全幹集材から全木集材に切りかえた。盤台式油圧枝払機もメーカーの協力を得て試験導入し、改良を加わえ完全に使いこなしている。斧による枝払いから、腕、肘など守れる心強い味方を持ち現場では皆が喜んでいる。末木枝条の処理は、盤台周辺に焼却する場所がないので、渡合独自の自動落下フックを考案して山元へ還元し雨天を利用して焼却している。造材は急峻な現場の付知では、従来の固定式玉切装置より地形的制約を受けないソー移動名古屋式を早期に導入して副作業の軽減をはかっている。

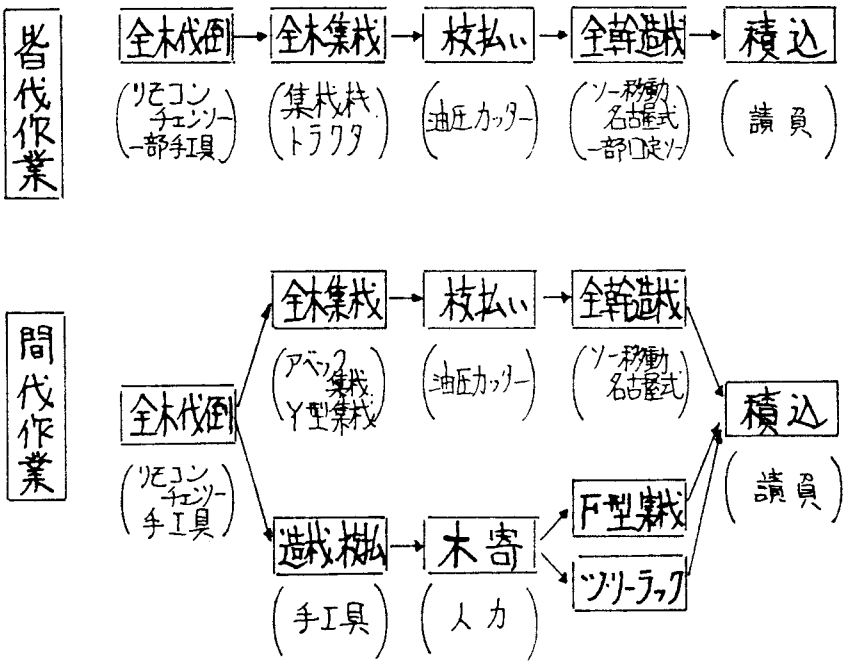
2. 私生活では、

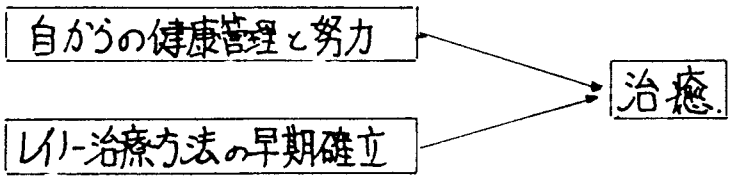
昭和41年に認定されると同時に、たばこをやめた人もいる。好きな鮎かけも体を冷やさないために自粛し、毎朝の洗顔もお湯を使い白ろうの予防に努めている。日曜日などの農作業も振動の多い耕運機からトラクターに切り替え、治癒にむけて頑張っている。

## まとめ—今後の方向—

今後は日常生活での自己管理と、無振動機械の開発と実用化に積極的に取り組み、治癒基準を早期に確立して1日も早く健全者の仲間入りができるよう努力し、一層の生産性向上をめざしたいと考える。

① 作業システムの確立




② 治癒にむけて